

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2008年6月30日から2019年12月9日まで
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、実質的にロシア企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資し、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 <b>ロシアエクイティマザーファンド</b> ロシア企業の株式（DR（預託証券）を含みます）
当ファンドの運用方法	■豊富な天然資源を活かし、今後の経済成長が期待されるロシア企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）を実質的に主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。 ■銘柄選定にあたっては、成長力、収益性、財務健全性・財務戦略、国の政策や規制、コーポレートガバナンスの5つの視点を重視します。 ■株式の実質組入比率は、原則として高位に保ちます。 ■外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行いません。
組入制限	当ファンド ■株式への実質投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 <b>ロシアエクイティマザーファンド</b> ■株式への投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	■年2回（原則として毎年6月および12月の8日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当等収益と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

# 三井住友・ ロシア株式オープン

## 【償還 運用報告書(全体版)】

(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

第 **23** 期

償還日 2019年12月9日

### 受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、実質的にロシア企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資し、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行いました。当期についても、運用方針に沿った運用を行い、2019年12月9日に償還となりました。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。



三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

■口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。

■当運用報告書についてのお問い合わせ

フリーダイヤル 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）

## ■ 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) MSCIロシアインデックス		株式組入 比率	純資産 総額	
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率	(円ベース)			期中 騰落率
	円	円	%		%	百万円	
19期(2017年12月8日)	7,338	0	13.3	27.60	14.5	98.2	871
20期(2018年6月8日)	7,279	0	△0.8	28.08	1.7	90.8	818
21期(2018年12月10日)	7,105	0	△2.4	28.08	0.0	95.0	666
22期(2019年6月10日)	7,648	0	7.6	31.33	11.6	95.7	666
(償還時)	(償還価額)						
23期(2019年12月9日)	7,645.48	—	△0.0	33.71	7.6	—	549

※基準価額の騰落率は分配金込み。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※MSCIロシアインデックス(円ベース)は、前日の指数を当日の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので、設定時を100として2019年12月9日現在知りえた情報にもとづき指数化した当社計算値です。

※MSCIロシアインデックスの著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

## ■ 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数) MSCIロシアインデックス		株式組入 比率
		騰落率	(円ベース)	騰落率	
(期首)	円	%		%	%
2019年6月10日	7,648	—	31.33	—	95.7
6月末	8,051	5.3	32.60	4.1	94.5
7月末	7,871	2.9	31.86	1.7	93.2
8月末	7,339	△4.0	29.41	△6.1	94.6
9月末	7,725	1.0	31.12	△0.7	96.1
10月末	7,660	0.2	34.24	9.3	—
11月末	7,649	0.0	33.81	7.9	—
(償還時)	(償還価額)				
2019年12月9日	7,645.48	△0.0	33.71	7.6	—

※騰落率は期首比です。

※当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

設定以来の運用状況 (設定日 (2008年6月30日) から償還日 (2019年12月9日) まで)

設定以来の基準価額の推移



※参考指数は、MSCIロシアインデックス (円ベース) です。  
 ※参考指数は、設定日を10,000として指数化した当社計算値です。

前期までの概略 (設定日 (2008年6月30日) から第22期末 (2019年6月10日) まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、ロシア企業の株式等へ投資しました。  
 以下は、設定から第22期末までの基準価額の変動要因です。

【第1期 (設定日 (2008年6月30日) ~2008年12月8日)】

下落要因

- ・世界の経済・株式市場の先行き不透明感や、原油安、通貨ルーブル安が嫌気され、期末にかけて下落したこと

【第2期 (2008年12月9日~2009年6月8日)】

上昇要因

- ・世界的なリセッション (景気後退) 脱却に向けた取組みで合意がなされたことが好感され、ロシア株式市場が大きく反発したこと

【第3期(2009年6月9日～2009年12月8日)】

上昇要因 ・ 期初より7月中旬にかけて軟調に推移した後、期末にかけて概ね堅調に推移したこと

【第4期(2009年12月9日～2010年6月8日)】

上昇要因 ・ 中国のユーロ債投資継続表明を好感して原油価格が大幅上昇するなど、市場環境の好転を背景に反発したこと

【第5期(2010年6月9日～2010年12月8日)】

上昇要因 ・ 米国経済指標の改善などを背景に続伸したこと

下落要因 ・ 欧州債務危機の拡大、中国の金融引締め観測など悪材料が重なったこと

【第6期(2010年12月9日～2011年6月8日)】

上昇要因 ・ 2011年に入り原油相場と石炭価格の値上りを背景にロシア株式市場が大幅に上昇したこと

下落要因 ・ 東日本大震災に伴い原油価格が乱高下し、世界経済に対する見通しも不透明になったこと

【第7期(2011年6月9日～2011年12月8日)】

上昇要因 ・ 欧州債務危機解決に取り組む欧州各国リーダーの姿勢が投資家の評価を得て主要国の株式市場が回復したこと

下落要因 ・ 原油価格が大きく下落したこと  
・ 世界景気減速懸念がグローバル株式市場に蔓延して投資家のリスク回避姿勢が鮮明になったこと

【第8期(2011年12月9日～2012年6月8日)】

上昇要因	・ 米国経済指標の好転とともに、インドや中国で利下げ観測が高まったこと
下落要因	・ 米国経済が回復力に陰りを見せ始め、世界景気に対する弱気の見方が投資家のリスク許容度を低下させたこと ・ ギリシャのユーロ離脱懸念、スペインの金融不安など、欧州を震源とする懸念材料がリスク回避の流れを強めたこと

【第9期(2012年6月9日～2012年12月10日)】

上昇要因	・ 主要国が欧州金融危機対策と景気減速への対応に本腰を入れるとの期待から世界的にリスク資産への回帰が起こったこと ・ ロシアルーブルが対円で上昇したこと
下落要因	・ IMF（国際通貨基金）の世界経済成長率見通しの下方修正、7～9月期米国企業決算の不振など、世界的に景気減速懸念が強まったこと

【第10期(2012年12月11日～2013年6月10日)】

上昇要因	・ 欧州金融危機深刻化に対する懸念の後退、日米の金融緩和策、中国の好調な経済指標などを好感して上昇したこと ・ ロシアルーブルが対円で上昇したこと
------	--

【第11期(2013年6月11日～2013年12月9日)】

上昇要因	・ 中国景気に対する過度な減速懸念が後退したことから、商品価格が反発するとともにロシア株も上昇したこと ・ ロシアルーブルが対円で上昇したこと
下落要因	・ 米国の量的緩和の早期縮小懸念が継続したこと

【第12期 (2013年12月10日～2014年6月9日)】

上昇要因	・ 3月中旬までの株価下落により、バリュエーション（株価評価）面での割安感が高まったこと
下落要因	・ ロシア国内景気の低迷、米国の量的金融緩和規模の段階的縮小の実施や将来の利上げ懸念が、株価抑制要因となったこと

【第13期 (2014年6月10日～2014年12月8日)】

上昇要因	・ 2014年10月から11月にかけて、世界的に株式市場が上昇したこと
下落要因	・ ロシア株式市場が、2014年7月から8月にかけて下落したこと ・ 期を通じて、ロシアルーブルが円に対して下落基調で推移したこと

【第14期 (2014年12月9日～2015年6月8日)】

上昇要因	・ ロシア中央銀行の利下げ（2015年1月以降）を受け、株式市場が底堅く推移したこと ・ 原油価格の下げ止まりや、2015年2月のウクライナ東部における停戦協定の合意を好感して株式市場が上昇したこと ・ 3月からのECB（欧州中央銀行）による量的緩和策の実施により、流動性の増加が期待されたこと
下落要因	・ 原油価格の下落を受けたロシア経済への不安の拡大 ・ ロシア中央銀行による大幅利上げ（2014年12月）により、ロシアルーブルが急落したこと ・ 米国・EUによる経済制裁強化に対する懸念が株式市場の投資家心理を悪化させたこと

【第15期(2015年6月9日～2015年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブル安を受けた輸出関連企業の業績改善期待による株式市場の上昇</li> <li>・ 中国および欧州の金融緩和政策の実施による8月下旬以降の世界的な株式市場の上昇</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低迷が続く原油価格を背景としたロシア経済への不安の拡大</li> <li>・ 中国景気の減速懸念を受けて、6月以降、商品市況、新興国の通貨および株式市場は総じて下落し、ロシア市場も通貨ルーブルが下落したこと</li> <li>・ 米国の利上げ開始に対する警戒感を受けて通貨が下落したこと</li> </ul>

【第16期(2015年12月9日～2016年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1月中旬以降、ロシア株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当期を通じてみれば、主要通貨に対して円高となったこと</li> <li>・ 期首から1月中旬にかけてロシア株式市場が下落したこと</li> </ul>

【第17期(2016年6月9日～2016年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月上旬から期末にかけて、原油価格の上昇を受け、株式市場が上昇したこと</li> <li>・ 10月上旬から期末にかけて、米国の利上げ観測の高まりを受け円安・米ドル高が進展したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初から9月下旬にかけて、米国の利上げ観測の後退などを背景に主要通貨に対して円高傾向となったこと</li> </ul>

【第18期(2016年12月9日～2017年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期初から2017年2月下旬にかけて、原油価格の上昇を受け、株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月以降、米国の対ロシア経済制裁の早期解除観測が後退したことを嫌気し、株式市場が下落したこと</li> <li>・ 1月中旬から4月中旬にかけて、トランプ政権の政策実現に懸念が高まったことなどをを受け、米ドル安・円高が進展したこと</li> </ul>

【第19期 (2017年6月9日～2017年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月下旬以降、サウジアラビアの原油輸出の抑制方針発表や米国の原油在庫減少による原油価格の上昇などを受け、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> <li>・ 米国の政策金利の引き上げと税制改革法案可決への期待が高まったことなどを受け、米ドル高・円安が進展したこと</li> </ul>
------	---

【第20期 (2017年12月9日～2018年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期首から2018年1月下旬にかけて、原油価格の上昇や、好調な経済指標や企業業績の発表などを背景に、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保有していたUCルサールが4月に米国の追加制裁対象となり、株価が急落したこと</li> <li>・ 2月の世界的な株価下落などを背景に、期を通してみれば、米ドルが円に対して下落したこと</li> </ul>

【第21期 (2018年6月9日～2018年12月10日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月から10月初めにかけて、原油価格の上昇や新興国市場の回復などを背景に、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通してみれば、ロシアルーブルが米ドルに対して下落したこと</li> </ul>

【第22期 (2018年12月11日～2019年6月10日)】

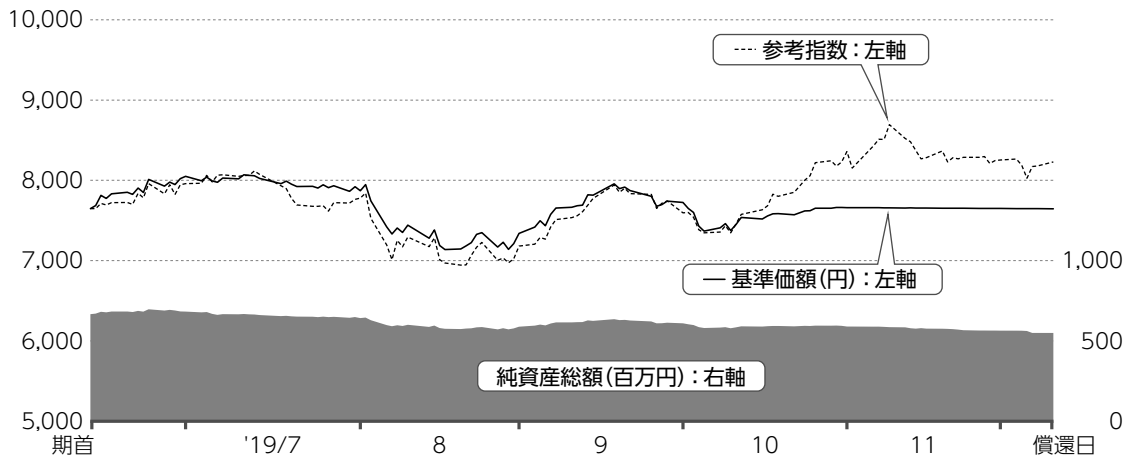
上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通じて、原油価格が総じて堅調に推移したことなどから、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円が米ドルに対して上昇したこと</li> </ul>



# 1 運用経過

基準価額等の推移について(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

## 基準価額等の推移



※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	7,648円
償還日	7,645円48銭
騰落率	-0.0%

※当ファンドの参考指数は、MSCIロシアインデックス(円ベース)です。

※MSCIロシアインデックスの著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

### 基準価額の主な変動要因(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、ロシア企業の株式等へ投資しました。ロシア企業の株式についてはロンドンやニューヨーク等で取引される米ドル建てのDR(預託証券)を中心に投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

#### 上昇要因

- 米中協議の進展期待や景気回復期待などを背景に海外株式市場が上昇したことなどから、ロシアの株式市場が上昇したこと
- 期を通してみると、米ドルが対円で小幅に上昇したこと



#### DR(預託証券)とは

Depositary Receipt の略で、株式を海外で流通させるために、その株式を銀行などに預託し、その代替として海外で発行される証券をいい、株式と同様に取引所などで取引されます。

投資環境について(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

当期のロシア株式市場は、上昇しました。為替市場については、米ドルは対円で小幅に上昇しました。

## ロシア株式市場

期を通じて、原油価格や海外株式市場の動向などに概ね連動した動きとなりました。

期首から7月上旬にかけては、原油価格の上昇や米中協議の進展期待などで、ロシア株式市場は上昇しました。その後、原油価格がピークアウトすると、ロシア株式市場も利益確定売りにより調整しました。8月1日に米国が中国への新たな追加関税を発表すると、海外株式市場は急落し、ロシア市場も下落しました。8月中旬から9月中旬にかけては、原油価格が底打ちしたことに加え、ロシアの中央銀行の金融緩和継続や格付会社がロシアの信用格付けを引き上げたことなどから、株式市場は反発、上昇しました。その後、再度原油価格が調整すると、ロシア株式市場も調整しましたが、10月以降は米中協議の進展期待が強まり、米国株式市場が堅調に推移したことや原油価格も緩やかに上昇基調を継続したことなどから、ロシア株式市場も上昇しました。ロシアの中央銀行は期中に4回の利下げを実施しました。

当期の市場の動きをMOE X 指数(ロシアルーブル建て)で見ると、7.3%の上昇となりました。また、RTS インデックス(米ドル建て)で見ると、9.2%の上昇となりました。

## 為替市場

米ドル・円は、期を通してみると小幅に米ドル高・円安となりました。

米ドル・円は、期首から7月末にかけては、概ね横ばいの動きとなりました。8月1日に米国が中国への新たな追加関税を発表すると、大きく米ドル安・円高へ振れました9月以降は、米中協議の進展や米国の金融政策をにらんだ動きとなりましたが、米国での利下げ観測の後退に伴い、償還日まで米ドル高・円安基調となりました。FRB(米連邦準備制度理事会)は期中で7月、9月、10月と3回の利下げを実施しましたが、10月の政策決定会合では、今後の利下げ停止を示唆しました。

米ドル・円は期首108円52銭から償還日108円60銭と0円08銭の米ドル高・円安となりました。

ポートフォリオについて(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

---

## 当ファンド

「ロシアエクイティマザーファンド」を高位に組み入れました。

---

## ロシアエクイティマザーファンド

### ●国別配分

ロシア国内に本社を置く企業を中心に運用を行いました。

### ●通貨別配分

ロシア企業についてはロンドンやニューヨーク市場に上場する米ドル建てで取引され

る預託証書(DR)を中心に組み入れました。

### ●業種配分

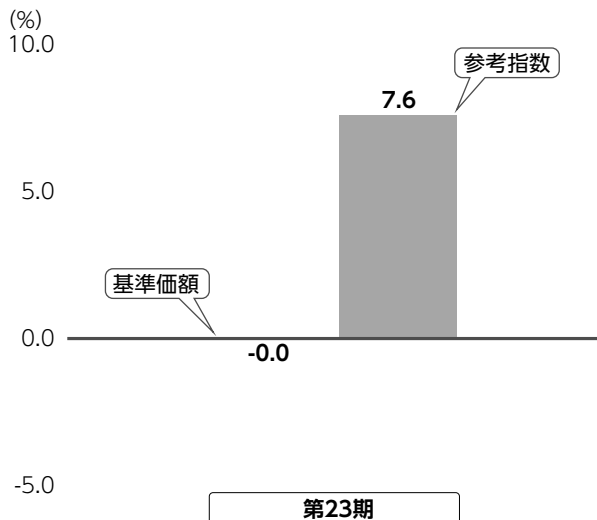
ロシアの産業構造から、エネルギー銘柄および素材銘柄のウェイトを高めに組み入れました。また、景気サイクルに耐性のある食品小売りや、ロシア内外で展開する飲料や医薬品なども保有しました。

### ●個別銘柄

大幅な銘柄入替えは行いませんでしたが、10月以降は償還に向け、保有銘柄を売却しました。

ベンチマークとの差異について(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

基準価額と参考指数の対比(騰落率)



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてMSCIロシアインデックス(円ベース)を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。償還に向け、現金化したため乖離が生じております。

※基準価額は分配金再投資ベース

分配金について(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

償還のため、該当事項はございません。

## 2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

## 3 お知らせ

約款変更について

該当事項はございません。

## ■ 1万口当たりの費用明細(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	70円	0.913%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数)
(投信会社)	(34)	(0.438)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(34)	(0.438)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.038)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	13	0.171	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(13)	(0.171)	売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.000	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.000)	有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	13	0.164	その他費用＝期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(3)	(0.045)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送回金・資産の移転等に要する費用
(その他)	(9)	(0.119)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	96	1.248	

期中の平均基準価額は7,715円です。

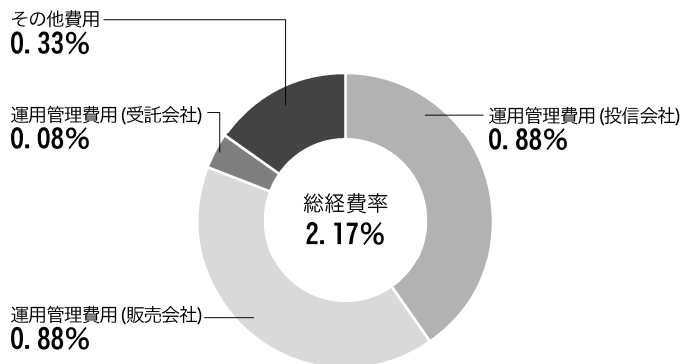
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

## ■ 参考情報 総経費率 (年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は2.17%です。

■ 当期中の売買及び取引の状況(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ロシアエクイティマザーファンド	千口 6,811	千円 11,098	千口 414,433	千円 690,378

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 親投資信託の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

項 目	当 期
	ロシアエクイティマザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	621,397千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	596,569千円
(c) 売買高比率 ( a ) / ( b )	1.04

※単位未満は切捨て。

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

■ 利害関係人との取引状況等(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況

(2019年6月11日から2019年12月9日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

■ 組入れ資産の明細(2019年12月9日現在)

親投資信託残高

種 類	期首(前期末)	期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ロシアエクイティマザーファンド	千口 407,621	千口 -	千円 -

※単位未満は切捨て。

■ 投資信託財産の構成

(2019年12月9日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 555,293	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	555,293	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2019年12月9日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	555,293,006円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	555,293,006
(B) 負 債	5,591,680
未 払 解 約 金	6,480
未 払 信 託 報 酬	5,584,441
未 払 利 息	739
そ の 他 未 払 費 用	20
(C) 純 資 産 総 額 ( A - B )	549,701,326
元 本	718,988,326
償 還 差 損 金	△169,287,000
(D) 受 益 権 総 口 数	718,988,326口
1 万 口 当 たり 償 還 価 額 ( C / D )	7,645円48銭

※当期における期首元本額871,596,733円、期中追加設定元本額39,498,147円、期中一部解約元本額192,106,554円です。

※上記表中の償還差損金は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

■ 損益の状況

(自2019年6月11日 至2019年12月9日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 1,017円
支 払 利 息	△ 1,017
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	4,845,062
売 買 益	8,241,073
売 買 損	△ 3,396,011
(C) 信 託 報 酬 等	△ 5,584,619
(D) 当 期 損 益 金 ( A + B + C )	△ 740,574
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	89,057,543
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△257,603,969
( 配 当 等 相 当 額 )	( 58,180,918)
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△315,784,887)
償 還 差 損 金 ( D + E + F )	△169,287,000

※信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。



■ 投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2008年6月30日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2019年12月9日		資産総額	555,293,006円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	5,591,680円
受益権口数	3,131,660,000口	718,988,326口	△2,412,671,674口	純資産総額	549,701,326円
元本額	3,131,660,000円	718,988,326円	△2,412,671,674円	受益権口数	718,988,326口
				1万口当たり償還金	7,645.48円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
	円	円	円	円	%
第1期	4,374,930,000	948,294,196	2,168	0	0.00
第2期	4,162,160,000	1,701,028,981	4,087	0	0.00
第3期	3,919,770,000	1,884,726,022	4,808	0	0.00
第4期	3,574,040,000	1,779,365,737	4,979	0	0.00
第5期	3,028,574,214	1,805,230,700	5,961	0	0.00
第6期	2,736,994,619	1,628,273,438	5,949	0	0.00
第7期	2,196,061,758	966,658,510	4,402	0	0.00
第8期	1,861,340,990	790,609,984	4,248	0	0.00
第9期	1,597,489,889	752,127,083	4,708	0	0.00
第10期	1,184,154,316	628,141,481	5,305	0	0.00
第11期	909,157,974	571,662,851	6,288	0	0.00
第12期	808,964,783	518,816,761	6,413	0	0.00
第13期	892,473,346	479,434,564	5,372	0	0.00
第14期	1,377,908,277	824,992,840	5,987	0	0.00
第15期	1,288,245,135	683,710,646	5,307	0	0.00
第16期	1,332,153,368	726,976,218	5,457	0	0.00
第17期	1,461,120,674	952,752,067	6,521	0	0.00
第18期	1,329,240,812	861,202,618	6,479	0	0.00
第19期	1,188,241,903	871,876,722	7,338	0	0.00
第20期	1,124,146,126	818,217,132	7,279	0	0.00
第21期	937,761,526	666,293,352	7,105	0	0.00
第22期	871,596,733	666,614,811	7,648	0	0.00

上記のほか、投資信託財産の計算に関する規則第58条第1項各号に該当する事項はありません。

# ロシアエクイティマザーファンド

第10期（2019年6月11日から2019年12月6日まで）

信託期間	2014年12月16日から2019年12月6日（当初、無期限）まで
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主としてロシア企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）に投資を行います。</li> <li>■銘柄選定にあたっては、成長力、収益性、財務健全性・財務戦略、国の政策や規制、コーポレートガバナンスの5つの視点を重視します。</li> <li>■組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。</li> </ul>

## 最近5期の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) MSC I ロシアインデックス(円ベース)		株式組入 比率	純資産 総額
	期中 騰落率	MSC I 騰落率	期中 騰落率	MSC I 騰落率		
6期(2017年12月8日)	円 15,368	% 14.3	145.56	% 14.5	% 97.3	百万円 879
7期(2018年6月8日)	15,396	0.2	148.10	1.7	90.0	825
8期(2018年12月10日)	15,179	△1.4	148.11	0.0	94.1	672
9期(2019年6月10日)	16,496	8.7	165.24	11.6	94.9	672
(償還時) 10期(2019年12月6日)	(償還価額) 16,635.28	0.8	176.70	6.9	—	554

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

※MSC I ロシアインデックス（円ベース）は、前日の指数を当日の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したもので、設定時を100として2019年12月6日現在知れた情報にもとづき指数化した当社計算値です。

※MSC I ロシアインデックスの著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

## 当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		(参考指数) MSC I ロシアインデックス(円ベース)		株式組入 比率
	騰落率	MSC I 騰落率	騰落率	MSC I 騰落率	
(期首) 2019年6月10日	円 16,496	% —	165.24	% —	% 94.9
6月末	17,383	5.4	171.94	4.1	94.5
7月末	17,024	3.2	168.06	1.7	93.0
8月末	15,892	△3.7	155.13	△6.1	94.4
9月末	16,750	1.5	164.11	△0.7	95.7
10月末	16,636	0.8	180.61	9.3	—
11月末	16,635	0.8	178.33	7.9	—
(償還時) 2019年12月6日	(償還価額) 16,635.28	0.8	176.70	6.9	—

※騰落率は期首比です。

※株式組入比率には、新株予約権証券を含みます。

設定以来の運用状況 (設定日 (2014年12月16日) から償還日 (2019年12月6日) まで)

設定以来の基準価額の推移



※参考指数は、MSCIロシアインデックス (円ベース) です。  
 ※参考指数は、設定日を10,000として指数化した当社計算値です。

前期までの概略 (設定日 (2014年12月16日) から第9期 (2019年6月10日) まで)

当ファンドは、ロシア企業の株式等へ投資しました。  
 以下は、設定日から第9期末までの基準価額の変動要因です。

【第1期 (設定日 (2014年12月16日) ~2015年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア中央銀行の利下げ (2015年1月以降) を受け、株式市場が底堅く推移したこと</li> <li>・原油価格の下げ止まりや、2015年2月のウクライナ東部における停戦協定の合意を好感して株式市場が上昇したこと</li> <li>・3月からのECB (欧州中央銀行) による量的緩和策の実施により、流動性の増加が期待されたこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原油価格の下落を受けたロシア経済への不安の拡大</li> <li>・ロシア中央銀行による大幅利上げ (2014年12月) により、ロシアルーブルが急落したこと</li> <li>・米国・EUによる経済制裁強化に対する懸念が株式市場の投資家心理を悪化させたこと</li> </ul>

## ロシアエクイティマザーファンド

### 【第2期(2015年6月9日～2015年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ルーブル安を受けた輸出関連企業の業績改善期待による株式市場の上昇</li><li>・ 中国および欧州の金融緩和政策の実施による8月下旬以降の世界的な株式市場の上昇</li></ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 低迷が続く原油価格を背景としたロシア経済への不安の拡大</li><li>・ 中国景気の減速懸念を受けて、6月以降、商品市況、新興国の通貨および株式市場が総じて下落し、ロシア市場も通貨ルーブルが下落したこと</li><li>・ 米国の利上げ開始に対する警戒感を受けて通貨が下落したこと</li></ul>

### 【第3期(2015年12月9日～2016年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1月中旬以降のロシア株式市場の上昇</li></ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当期を通じてみれば、主要通貨に対して円高となったこと</li><li>・ 期首から1月中旬にかけてのロシア株式市場の下落</li></ul>

### 【第4期(2016年6月9日～2016年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 11月上旬から期末にかけて、原油価格の上昇を受け、株式市場が上昇したこと</li><li>・ 10月上旬から期末にかけて、米国の利上げ観測の高まりを受けた円安・米ドル高の進展</li></ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 期初から9月下旬にかけて、米国の利上げ観測の後退などを背景に主要通貨に対して円高傾向となったこと</li></ul>

### 【第5期(2016年12月9日～2017年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 期初から2月下旬にかけて、原油価格の上昇を受け、株式市場が上昇したこと</li></ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 4月以降、米国の対ロシア経済制裁の早期解除観測が後退したことを嫌気し、株式市場が下落したこと</li><li>・ 1月中旬から4月中旬にかけて、トランプ政権の政策実現に懸念が高まったことなどをを受け、米ドル安・円高が進展したこと</li></ul>

【第6期(2017年6月9日～2017年12月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月下旬以降、サウジアラビアの原油輸出の抑制方針発表や米国の原油在庫減少による原油価格の上昇などを受け、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> <li>・ 米国の政策金利の引上げと税制改革法案可決への期待が高まったことなどを受け、米ドル高・円安が進展したこと</li> </ul>
------	--

【第7期(2017年12月9日～2018年6月8日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期首から1月下旬にかけて、原油価格の上昇や、好調な経済指標や企業業績の発表などを背景に、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保有していたUCルサールが4月に米国の追加制裁対象となり、株価が急落したこと</li> <li>・ 2月の世界的な株価下落などを背景に、期を通してみれば、米ドルが円に対して下落したこと</li> </ul>

【第8期(2018年6月9日～2018年12月10日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月から10月初めにかけて、原油価格の上昇や新興国市場の回復などを背景に、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通してみれば、ロシアルーブルが米ドルに対して下落したこと</li> </ul>

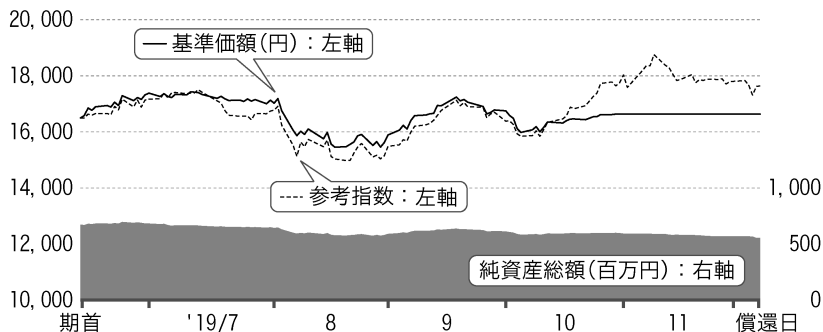
【第9期(2018年12月11日～2019年6月10日)】

上昇要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期を通じて、原油価格が総じて堅調に推移したことなどから、ロシアの株式市場が上昇したこと</li> </ul>
下落要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円が米ドルに対して上昇したこと</li> </ul>

## 1 運用経過

### ▶ 基準価額等の推移について (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

#### 基準価額等の推移



期首	16,496円
償還日	16,635円28銭
騰落率	+0.8%

※参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

※当ファンドの参考指数は、MSCIロシアインデックス（円ベース）です。

※MSCIロシアインデックスの著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

### ▶ 基準価額の主な変動要因 (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

当ファンドは、ロシア企業の株式等へ投資しました。ロシア企業の株式についてはロンドンやニューヨーク等で取引される米ドル建てのDR（預託証券）を中心に投資を行いました。外貨建資産については、対円での為替ヘッジを行っていません。

#### 上昇要因

- ・ 米中協議の進展期待や景気回復期待などを背景に海外株式市場が上昇したことなどから、ロシアの株式市場が上昇したこと
- ・ 期を通してみると、米ドルが対円で小幅に上昇したこと

### ▶ 投資環境について (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

当期のロシア株式市場は、上昇しました。為替市場については、米ドルは対円で小幅に上昇しました。

#### ロシア株式市場

期を通じて、原油価格や海外株式市場の動向などに概ね連動した動きとなりました。

期首から7月上旬にかけては、原油価格の上昇や米中協議の進展期待などで、ロシア株式市場は上昇しました。その後、原油価格がピークアウトすると、ロシア株式市場も利益確定売りにより調整しました。8月1日に米国が中国への新たな追加関税を発表すると、海外株式市場は急落し、ロシア市場も下落しました。8月中旬から9月中旬にかけては、原油価格が底打ちしたことに加え、ロシアの中央銀行の金融緩和継続や格付会社がロシアの信用格付けを引き上げたことなどから、株式市場は反発、上昇しました。その後、再度原油価格が調整すると、ロシア株式市場も調整しましたが、10月以降は米中協議の進展期待が強まり、米国株式市場が堅調に推移したことや原油価格も緩やかに上昇基調を継続したことなどから、ロシア株式市場も上昇しました。ロシアの中央銀行は期中に4回の利下げを実施しました。

当期の市場の動きをMOEX指数（ロシアルーブル建て）で見ると、6.2%の上昇となりました。また、RTSインデックス（米ドル建て）で見ると、7.9%の上昇となりました。

#### 為替市場

米ドル・円は、期を通してみると小幅に米ドル高・円安となりました。

米ドル・円は、期首から7月末にかけては、概ね横ばいの動きとなりました。8月1日に米国が中国への新たな追加関税を発表すると、大きく米ドル安・円高へ振れました9月以降は、米中協議の進展や米国の金融政策をにらんだ動きとなりましたが、米国での利下げ観測の後退に伴い、償還日まで米ドル高・円安基調となりました。FRB（米連邦準備制度理事会）は期中で7月、9月、10月と3回の利下げを実施しましたが、10月の政策決定会合では、今後の利下げ停止を示唆しました。

米ドル・円は期首108円52銭から償還日108円81銭と0円29銭の米ドル高・円安となりました。

### ▶ ポートフォリオについて (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

#### 国別配分

ロシア国内に本社を置く企業を中心に運用を行いました。

#### 通貨別配分

ロシア企業についてはロンドンやニューヨーク市場に上場する米ドル建てで取引される預託証券（DR）を中心に組み入れました。

## 業種配分

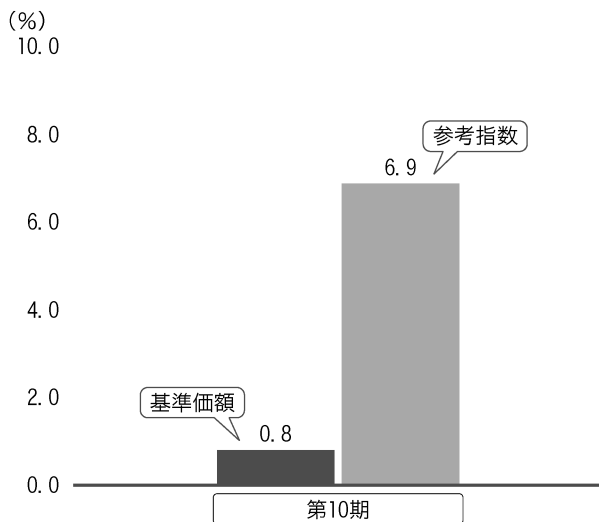
ロシアの産業構造から、エネルギー銘柄および素材銘柄のウェイトを高めに組み入れました。また、景気サイクルに耐性のある食品小売りや、ロシア内外で展開する飲料や医薬品なども保有しました。

## 個別銘柄

大幅な銘柄入替えは行いませんでしたが、10月以降は償還に向け、保有銘柄を売却しました。

## ▶ ベンチマークとの差異について (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

### 基準価額と参考指数の対比 (騰落率)



当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数としてMSCIロシアインデックス（円ベース）を設けています。

左のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。償還に向け、保有銘柄を売却し現金化を進めたため乖離が生じております。

## 2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。



## ロシアエクイティマザーファンド

### ■ 1万口当たりの費用明細(2019年6月11日から2019年12月6日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 売買委託手数料 (株式)	28円 (28)	0.170% (0.170)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税 (株式)	0 (0)	0.000 (0.000)	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	28 (8) (20)	0.165 (0.045) (0.119)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用 その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	56	0.335	

期中の平均基準価額は16,720円です。

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

### ■ 当期中の売買及び取引の状況(2019年6月11日から2019年12月6日まで)

株 式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	ア メ リ カ	百株 —	千米ドル —	百株 3,054	千米ドル 5,247
	イ ギ リ ス	—	千英ポンド —	140 (—)	千英ポンド 358 (30)

※金額は受渡し代金。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※( )内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

### ■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2019年6月11日から2019年12月6日まで)

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	621,397千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	596,569千円
(c) 売買高比率 ( a ) / ( b )	1.04

※単位未満は切捨て。

※(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

※外貨建資産については、(a)は各月末(ただし、決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計、(b)は各月末の同仲値で換算した邦貨金額合計の平均です。

## ロシアエクイティマザーファンド

### ■ 利害関係人との取引状況等 (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

当期中における利害関係人との取引等はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

### ■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年6月11日から2019年12月6日まで)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

### ■ 組入れ資産の明細 (2019年12月6日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		期末		業種等
	株数	株数	評価額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
GAZPROM-ADR	189	—	—	—	エネルギー
MOBILE TELESYSTEMS-SP ADR	283	—	—	—	電気通信サービス
SURGUTNEFTEGAS-SP ADR	252	—	—	—	エネルギー
X 5 RETAIL GROUP NV-REGS GDR	108	—	—	—	食品・生活必需品小売り
NOVATEK PJSC-SPONS GDR REG S	27	—	—	—	エネルギー
NOVOLIPETSK STEEL-GDR	188	—	—	—	素材
ROSNEFT OIL COMPANY-GDR	366	—	—	—	エネルギー
PAO TMK-GDR REGS (EXCH-LDN)	315	—	—	—	エネルギー
SEVERSTAL-GDR REG 5	285	—	—	—	素材
MAGNIT OJSC-SPON GDR REGS	118	—	—	—	食品・生活必需品小売り
SBERBANK PAO-SPON ADR	316	—	—	—	銀行
PHOSAGRO OAO-GDR REG S	174	—	—	—	素材
MMC NORILSK NICKEL PJSC-ADR	170	—	—	—	素材
TATNEFT-SPONSORED ADR (EXCH-LDN)	71	—	—	—	エネルギー
LUKOIL PJSC-SPON ADR	61	—	—	—	エネルギー
YANDEX NV-A	125	—	—	—	メディア・娯楽
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	3,054 16	— —	— —	
(イギリス)			千英ポンド		
COCA-COLA HBC AG-CDI	140	—	—	—	食品・飲料・タバコ
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	140 1	— —	— —	
合計	株数・金額 銘柄数<比率>	3,194 17	— —	— —	

※<>内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

※—印は組入れなし。

※銘柄コードの変更等、管理上の都合により同一銘柄であっても別銘柄として記載されている場合があります。

# ロシアエクイティマザーファンド

## ■ 投資信託財産の構成

(2019年12月6日現在)

項 目	期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	566,352	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	566,352	100.0

※単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

## ■ 資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2019年12月6日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	566,352,685円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	566,352,685
(B) 負 債	11,951,880
未 払 解 約 金	11,937,735
未 払 利 息	930
そ の 他 未 払 費 用	13,215
(C) 純 資 産 総 額 ( A - B )	554,400,805
元 本	333,268,070
償 還 差 益 金	221,132,735
(D) 受 益 権 総 口 数	333,268,070口
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 ( C / D )	16,635円28銭

※当期における期首元本額407,621,442円、期中追加設定元本額6,811,692円、期中一部解約元本額81,165,064円です。

※償還時における元本の内訳は、三井住友・ロシア株式オープン333,268,070円です。

※上記表中の受益権総口数および1万口当たり償還価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第7号および第11号に規定する受益権の総数および計算口数当たりの純資産の額となります。

## ■ お知らせ

### <約款変更について>

該当事項はございません。

## ■ 損益の状況

(自2019年6月11日 至2019年12月6日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	24,599,619円
受 取 配 当 金	24,646,677
受 取 利 息	13,097
支 払 利 息	△ 60,155
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 16,704,329
売 買 損 益	28,049,472
売 買 損 益	△ 44,753,801
(C) 信 託 報 酬 等	△ 1,022,113
(D) 当 期 損 益 金 ( A + B + C )	6,873,177
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	264,785,472
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	4,287,090
(G) 解 約 差 損 益 金	△ 54,813,004
償 還 差 益 金 ( D + E + F + G )	221,132,735

※信託報酬等には、保管費用等を含めて表示しています。

※追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

※解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。